



大阪府立園芸高等学校			
〒563-0037 大阪府池田市八王寺2-5-1 ☎072-761-8830			
活動団体	ビオトープ部		
主な活動時間	部活動として	活動人数	20人
最終審査会発表生徒	谷端 美紀(3年)、山田りさ(2年)	担当教諭	東尾 茂宏、中村 和幸

蝶の舞う街づくりと絶滅危急種昆虫少年・少女の復活プロジェクト

【目標・今後の計画】

欧米ではバタフライガーデンがブームになっており、各地にバタフライガーデンが造られている。それに比べ我が国ではバタフライガーデンはあまり造られていない。バタフライガーデンに植栽する植物がほとんど市販されていないためである。そこで、これらの植物の種子を野山で採取し、ポット栽培に取り組む。出来上がった苗を用いて各地にバタフライガーデンを造るとともに、ビオトープ部がバタフライガーデンづくりに協力する。最大の目標はこれらのバタフライガーデンを活用して子供達が昆虫採集に興味・関心を持つようにしていきたいと思う。つまり昆虫少年・少女を育成する場所として整備していきたいと思っている。



【活動内容】

野山に行って蝶の食餌植物や吸蜜植物の種子を採集する。この活動には本校ビオトープ部の生徒20人がかかわる。

播種、鉢上げ、ポット苗の管理を生徒が行う。この活動は授業やクラブ活動の一環として行い、延べ人

数として100人前後を想定している。

出来上がった苗を用いて各地にバタフライガーデンを造園する。この活動は原則として土、日曜に行うため、ビオトープ部の生徒20人が中心となって行う。箕面昆虫館、南大阪昆虫同好会と連携し、バタフライガーデンに飛来・吸蜜・摂食する蝶やそれ以外の昆虫の調査を行う。

企業の方々や地域住民と連携して、バタフライガーデンの管理を適時行う。

バタフライガーデンに関する取り組みをホームページに掲載するとともに、ブログを開設してバタフライガーデンの普及に取り組む。



【成果・実績】

妙見の森バタフライガーデンは2,000平方メートル以上あり、現在までに6回植栽したが、それでも1/3は手付かずの状態である。未植栽部分の植栽を行う。

伊丹空港バタフライガーデンは昨年度完成したが、引き続き植栽する。

本校のバタフライガーデンに関する取り組みをホームページにアップしており、「バタフライガーデンと

いえば園芸高校」と呼ばれるようになった。これを見られた大阪市立自然史博物館および長居植物園よりバタフライガーデンづくりへの協力依頼があり、平成26年7月に植栽した。

妙見山ケーブル山頂駅に造ったバタフライガーデンを活用して能勢電鉄と昆虫採集イベントを開催し、たいへん評判であった。この活動を継続する。



●活動にあたり創意工夫したこと

現在、多くの団体から苗の配布依頼があるため、プラグ苗生産システムを利用してポット苗の大量栽培に取り組んでいる。また、地域住民等が中心になって管理運営していただけるようにしており、ピオトップ部がサポートする形をとっている。

●活動の際に苦労したこと

バタフライガーデン造りは休日しかできないので、日程の調整作業が必要である。さらに希望される団体が多いため、希望に十分添えない状況にある。

活動の環^わを広げよう 出場者からの提言

◎昆虫や土が好きな子供たちを増やしましょう！ 私は、今の環境問題に対しての若い世代の関心がないことが一番の問題だと思います。関心を持つこと、持てるような授業を推進していくこと。土は汚くない！ 生物の意義なども伝え、環境に取り組む日本にしましょう！ そしてそこから蝶の庭の発展にも繋げていきたいです。 (谷端 美紀・女・3年)

◎私達の活動は蝶の好きな植物を植えることで身近な蝶を呼び戻そうというものです。できればその場所に自生している植物を用いてバタフライガーデンを造るようにしています。バタフライガーデンを普及するためには蝶や昆虫について広く知ってもらう必要があります。私達の活動に興味を持たれた方は周りの人達に蝶を初めとした生き物の魅力を伝えてください。それが生態系を保全するための第一歩です。 (山田りさ・女・2年)